

12G 「今回の支援活動について、各自コメントをもらうことにしました」



(全道庁十勝・竹鼻氏)

支援行動を終えて、今帰路の飛行機に乗っている。人生は一期一会というが、今回の支援行動でそれを実感することができた。思い返せば10年前、阪神淡路大震災にボランティアに出かけたが、出会った人の顔・名前はすべて忘れてしまった。今回出会った被災者や同じ行動を過ごした自治労の仲間、役場の職員、数年経ったらまた忘れるだろう。

自治労支援ということで、行政支援とは違い、お手伝い程度のことしかできなかったが、役場職員の多少の手助けになったと自負している。建設課での業務であったが、仮

設住宅の申込みに来た年配の女性が役場担当者に「もうこれ以上あそこに居たら狂ってしまう、自殺する前に何とか入居させてほしい」と泣きついていた。

被災者には現実な思いがあるのだろうが、行政としても「はいわかりました」と言えない所もあり、何ともいえない自分がそこに居た。私は公務員でもある。自分ならどうしただろう。仮設住宅は急ピッチで建築されているが、入居までにはまだ時間がかかりそうである。しかし我々の支援で入居が早まったと言って頂ければ幸いだ。自治労連の職場ということで多少身構えたが、数日過ごす結構いいやつばかりで安心して行動できた。彼らには名前も住所も明かしていないが記憶には残ったと思う。北海道本部からの6人も性格が色々で、ともすれば衝突しそうな危なっかしいメンバーであったが、これがまたなんとなく歯車が合って、うまい人選だったと思う。今年全員で何時会えるかわからないが、今回の経験を基に各持ち場持ち場で活躍されることだろう。活躍を祈りたい。

年齢的に、今後は後方支援に徹する事になるだろうから、自ら来る年はもうないと思う。今回の行動は北海道に居てイライラするより、動けるうちに少しでも被災者等の支援をしたいとの思いから手を挙げました。今帰路に着き、自分の心のサプリメントになったことに満足しているし「被災者の皆さんにも」と願ってならない。

この後は、組織において体験を話して、少しでも被災地の惨状を伝えていきたい。

ともに行動した仲間に感謝して！



(全道庁後志・鈴木氏)

今回の派遣先は、自治労連加盟の山田町であった。私がかつて根室市職労旗揚げに加わり、当事、労連加盟の根室市労連と激しく対立した経験を持っている。どういう形でもいいから被災者の助けになりたいと思っていた私ではあるが、まさか自治労が自治労連加盟単組の支援を行うとは思わなかった。中央本部や岩手県本部の思いはわからないが、自治労は自治労で奮闘している組合員のために支援すべきではないだろうか。そんな気持ちを封印して被災者のために働いてきたが、被災者から声を掛けられることも多く、

一緒に明るく振舞っている被災者を見ると来てよかったと思っている。ただ、やはり自治労派遣である以上、仲間のところで働きたかった。これが本音である。

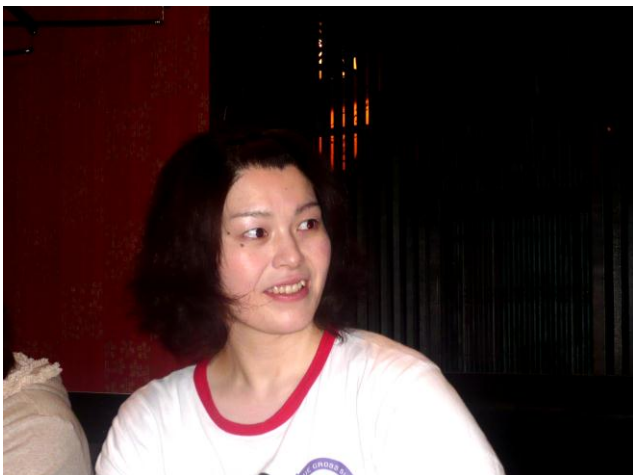


(津別町職・青柳氏)

被災地に入る前に労連の話は聞いていた。被災地に入ってから疑問を感じ近隣の青森・秋田チームがあるのに、なぜ北海道・大阪・兵庫チームが選ばれたのか理由を問いただした。よく分からない理由であったが、被災地の住民のために支援活動に入るのに、自治労・自治労連の関係をどうこう言うつもりはない。労連だって今の時代、職員みんながバリバリの活動をしているとは思わない。自治労だって役員に当たったものだけが頑張っているような単組はどこにでもある。かつて総評から分離した二つの団体の経過を知るには、私がギリギリの世代ではないだろうか。いくつか前のグループでビブス・腕章を外す指示が出ていたようだが、私はようすを見てフル装備でウロウロしてみた。階段や印刷室で会話した人も北海道の話と、いっぱい腕章付けてますね。しか言わなかった。被災地支援のために自治労が、組織の枠を超えて支援に入った。それでいいのではと思うが、後は中央本部にしっかりと今後の対応に取り組んでほしい。

そして今回の被災地支援の休暇の取り方には、公務出張（義務免含）半分、ボランティア休暇半分と聞いている。政府（人事院）は、年5日間に定めているボランティア休暇制度を7日間とする特例を設けている。今回自治労が展開している地域は災害救助法が適用されている地域であり、年給を取ってしまった方も総務担当に確認してほしい。4月頃町村会ルートで取りまとめられていた短・中・長期派遣については、公務主張扱いとされ、全国から2000人規模の応募があった。被災地支援だけに、一刻でも早く現地に行きたい。欠員が出てすぐ行ってお願ひされ交渉期間がなく年休・ボラ休で支援活動に参加した方もいると思うが、旅費は自治労でも、公務出張（義務免）を取る。当局に職員を派遣させ現地を見てくる重要さを認識させる必要はあったはず。道本部には、早期からそういう情報を流してほしい。

今回、震災支援という貴重な経験をさせていただいた。自治労は職域だけを守る活動をしている団体ではないということ、全面に出し今後の活動を展開してほしい。避難所にはまだ1800人程の方々が、譲り合いながらの生活をしている。何も無くなってしまった環境から精神的に辛い日が続いてきたはず、本当に尊敬の念が絶えない。被災を受けた皆さんが、一日も早く元の生活に戻れることをお祈りいたします。



(北広島市職・岸本さん)

被災地へ行く前は、ガレキの山をイメージしていました。しかし震災から3カ月余り経った今、そこには何もありませんでした。私の仕事は役場の事務補助でしたが、果たして役に立てたのか、自己満足だったのではないかと、支援活動が終わった今でも分かりません。復興への道のりは決して簡単ではありませんが、まちでは仮設テントで営業している店舗や家の修復作業等々が見られます。被災地は、確かに前へ向かって進んでいます。一日も早い復興を心から願っております。



(上士幌町職・佐藤さん)

今回の派遣で、自然というものの恐ろしさ、人のたくましさ優しさを知ることができた。自分が復興支援に行っ
て何かお役に立てたか、正直分からないが、北海道団含む自治
労の支援によって元気な岩手になってくれたらと思う。

12Gの皆さん(特に沢田屋ですっと同室だった岸本さん)
本当にありがとうございました。



(道本部・櫛部氏)

初めて行った土地での活動でしたが、津波被害というす
さまじい現実を前に立ちすくむ事が多かったです。

これからが本当の復興支援ではないでしょうか。元どお
りになるのは、5年先10年先になるか分かりませんが、個
人の力は小さいと思うし、自分の力も同様です。日本全体
の力でしっかりと支えていかないと感じました。

○翌日、盛岡→花巻空港→新千歳空港→それぞれの地へと向かう。

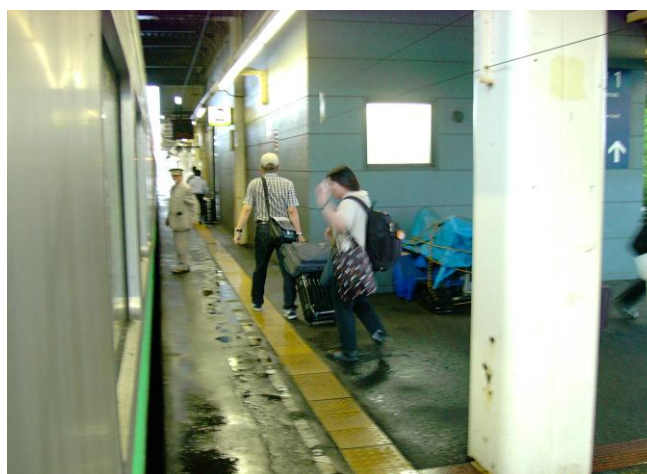


(新千歳空港での解団式)

この後、櫛部と鈴木は消えた。「消える櫛部！」は今回の
自治労支援活動のひとつの言葉となった。その後青柳の追及
に、二人は別の席にしっかり座っていた。(解団式したから
といって、南千歳まで6人一緒だったのに。)



疲れ果てた表情の鈴木氏（この人が居なければどうなっていたか）



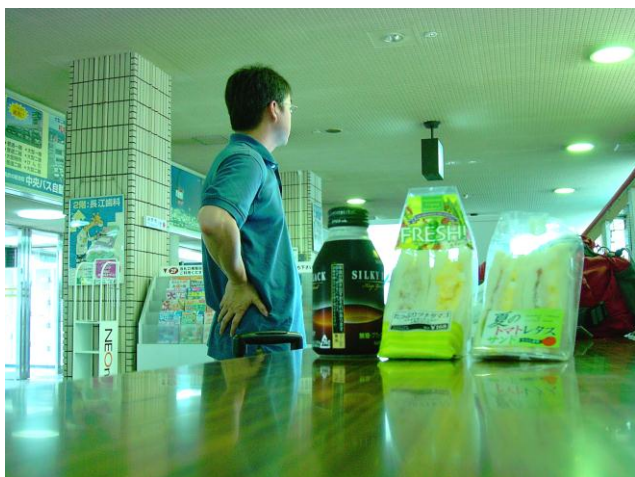
後ろ姿で去る竹鼻（中央）、軽く手を上げ微笑む佐藤（右）
何かカッコいい！ 二人はJRで帰途、十勝に向かう。



←道本部への報告

杉谷（左奥）・藤盛（右）・三浦（写真なし）の三人の副委員長に山田町での活動行政支援の報告を行う。

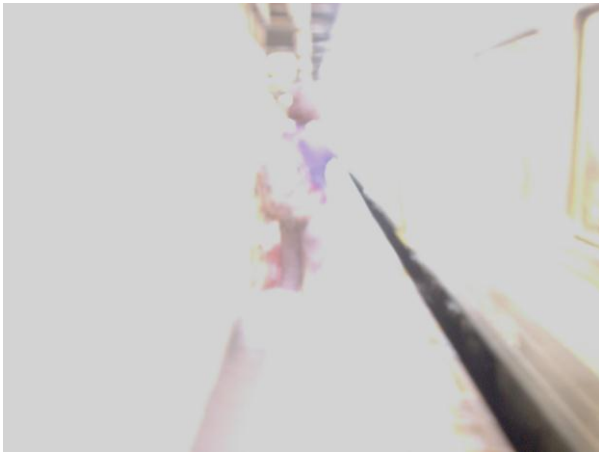
- ・ 榎部氏は道本部賃金労働部長
- ・ 青柳氏は自治体政策部の自治研推進委員



「当分おにぎりは食べない」と青柳氏は、この後、弾丸バスで北見へ、さらに30分で故郷「津別」に向かう。

※ あれっ！ 岸本さんは？ の間に。

(写真が悪くカットと思ったのですが、いいタイトルが浮かびました。)



「地元の光に迎えらるる 岸本！」

うーん！ どうか。

「編集後記」

20年振りに短編小説を書いたような気がしています。フィクション仕立てで、やらせ写真もありますが、支援活動は当たり前の事実です。文中には冗談を超えた表記もありますが、皆さまの暖かい心でお許し願います。

さらに文中には適度な用語、時代背景をトラップとして入れてみました。「村山談話」「男女平等問題」「一人職場」などです。編集にあっては、大阪の小川氏の出現により、道本部への報告が危なく「今日の小川氏」についての報告になるところでした。今もぎりぎり北海道なのに大阪を宣伝してしまうこの大失態。一体報告者は誰なのか？ 文章表現とカメラアングルでだいたい予想されていると思いますが、真相を知りたい方は道本部定期大会で、12Gの6人を訪ね合言葉「ワルシャワの〇〇」を教えてください。宮古の夜を過ごした方は分かるでしょう。と（推理要素も入れてみました。）

☆特別コーナー 「今日の小川氏」 最終話（帰路に就く小川氏）



長野大会での登壇に向け、目をつむり心眼での読書に余念がない今日の小川氏。(左) (寝てませんよ！)

本の題名は「プリンセストヨトミ」

隣はマネージャーの大塚氏。実は厳しい労働条件で小川氏を働かせている立場。小川氏の知名度を上げることで、経費を水増し、小川マネーの資金洗浄を企てる。

今週から、小川氏も通常勤務。果たしてヒゲはどうしたのか小川氏。家に入れたのか小川氏。ヒゲを剃ったら誰も長野大会でわからないぞ小川氏。

さてさて、小川氏の選択はいかに！（剃る・剃らない）

「さて、ここで大阪の小川氏から最終話に向けてのメッセージが届きましたので紹介させていただきます。」

この度はいろいろと申し訳ありません。ご自宅にまでお邪魔をします。「メールです。」

以下、大阪と北海道を何回も行っては帰ってきた内容ですので、すいませんがよろしくお願いを申し上げます。毎度！ 元気に飲んでまっか？ 戻るやいなやたまった仕事に追われています。

岩手では大変お世話になりました。少し酔っていたとはいえ失礼な言動も多々あったと思います。
この場を借りてお詫び申し上げます。

さて、早速ブログを拝見させていただきました。本当に載せていただいているんですね、ありがとうございます。
私へのファンレターのあて先を自宅にするか職場にするか検討しております。

ところで、載せていただいているなんなんですが、少し訂正をいただければ...という箇所がありまして。

まずは、大阪府職の小川ではなく、大阪府本部の小川なんです。

「あっ！偉いんですね。」

実は今回の 12G には大阪府職の小川さんも参加されていて、その小川さんは、この小川さんとは違い
とても真面目な方で、大阪府職の現書記長でもあります。

「えっ！ そんな偉い人居たの。早く言ってよ！」

これが何回か出てきておりますので、訂正をこっそりといただければありがたいです。

もう一点は、大阪では「頑張れ！」ではなく「頑張ろや！」といいます。

「頑張るや！」はあまり使われておりませんので、直していただければありがたいです。

「**ろとる**を打ち間違えました。すいません。」

せっかく載せていただいているのにお願いはかりで申し訳ありませんが、よろしくお願いを申し上げます。
あと...必要な資料等ございましたら、たとえば...ご幼少の頃のお写真とか、へその緒とか。
また送りますので、よろしくお願いを申し上げます。

すいません。私も少し酔っていて話を作ってしまった。「現書記長はマズイかなー」私もビビリ始めてきました。名前を出さなくてよかったー。

直りますか？谷川さん。あの「大阪の小川」さんが、ビビっているようすです。よろしくお願ひします。